

PVEXPO2025【春】 ブース内講演

『利他』と『共創』が実現する 地球の未来、そして地球維新

～クライシスの時代・大転換の今を乗り越えるために～

株式会社エクソルは、2025年日本国際博覧会の「大阪ヘルスケアパビリオン」に協賛しています。



ひきだしたい、無限の太陽力。



2025年2月19日（水）～21日（金）

株式会社エクソル 代表取締役社長

一般社団法人太陽光発電協会 理事

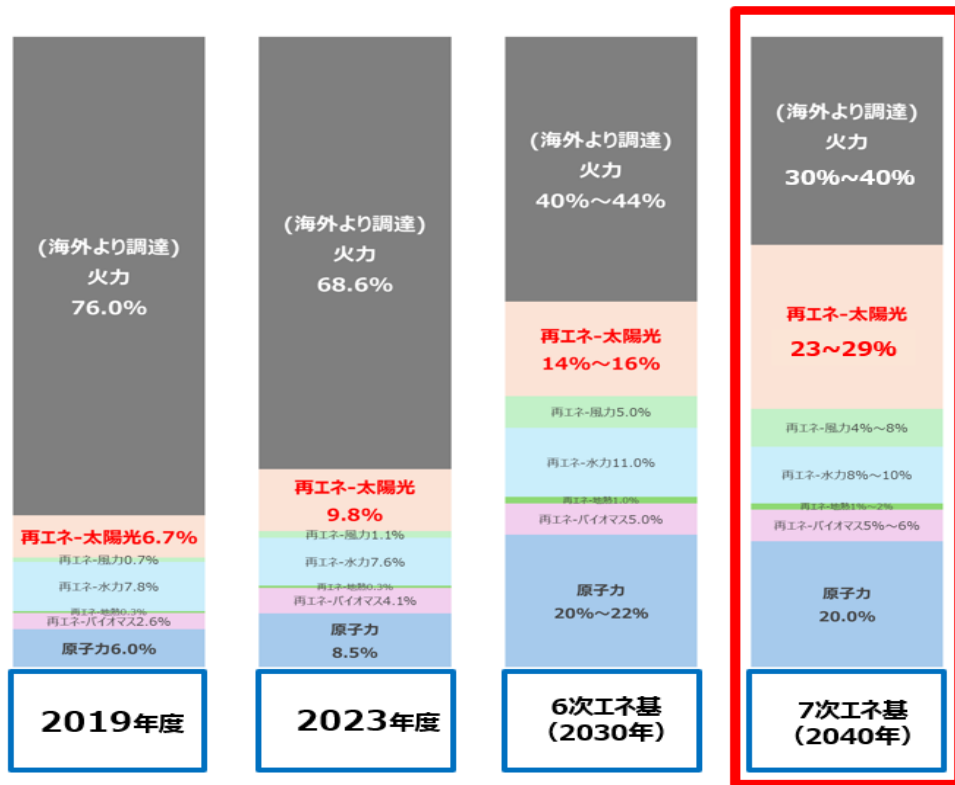
鈴木 伸一

Agenda

1. 地球・日本のエネルギー政策のあるべき姿とは？
2. 再エネ・PV・原発・火力、それぞれの役割やこれまでとこれから
3. なぜ、「クライシスの時代」なのか？それを乗り越えるとは？
4. 「拝金主義」に姿を変えてしまった末期的資本主義
5. すべての原因は「自分さえよければいい」という「エゴ」という名の地球に蔓延する「悪想念」
6. 対症療法と根本治療
7. 日本における、あるべきPV普及の姿
8. これから来る未来の子供たちのために

1.地球・日本のエネルギー政策のあるべき姿とは？
→「エネルギー基本計画は『計画』ではない」

エネルギー基本計画は『計画』でもなければ「目標」でも「見込み」でもない ただの『目安』に過ぎない



※数値は暫定値であり、
今後変動し得る。

経済産業省

※数値は暫定値であり、今後変動し得る。

2040年度におけるエネルギー需給の見通し
(関連資料)

令和6年12月
資源エネルギー庁

※2025年2月18日閣議決定

現行・原子力発電に可能性・経済合理性はあるか？

2023年5月

原子力発電所**60年超の運転**を可能にする「GX脱炭素電源法」が成立

第7次電源構成では、原子力発電所は新設含めて2割に



新設または60年超え運転、製造業者・発電事業者にやりたい者はいるか？

増え続ける
対策・建設コスト

新規制基準 (2013年7月)	
意図的な航空機衝突への対応	テロ対策 (新設)
放射性物質の拡散抑制対策	シビア アクシデント 対策 (新設)
格納容器破損防止対策	
炉心損傷防止対策 (事故の復旧の故障を想定)	
内部溢水に対する考慮 (新設)	強化 または新設
自然現象に対する考慮 (火山・竜巻・森林火災を新設)	
火災に対する考慮	
電源の信頼性	
自然現象に対する考慮	強化
火災に対する考慮	
電源の信頼性	強化
その他の設備の性能	
耐震・耐津波性能	強化

再エネ vs 現行・原子力発電 論争

再エネに対する批判

- ・金儲けばかりで、コスト低減や安定供給、地域共創に取り組んでいない。
- ・太陽光や風力は天候に左右され不安定、需給バランス調整も難しい。
- ・導入が進むにつれて、送電コストや賦課金が上昇する。
- ・地域の森林伐採や土地改変が行われ、土砂災害のリスクが高まる。
- ・景観が悪くなる。
- ・大量の廃棄物が発生する。
- ・パネルの生産地である中国ウイグル自治区において、人権問題が取り沙汰されている。
- ・海外からの輸入に頼っていて、国内需要に結びつかない。
- ・再エネ賦課金があがり、電気代の上昇を招いている

両者共に定量的可能性・経済合理性等のデータ不在



VS

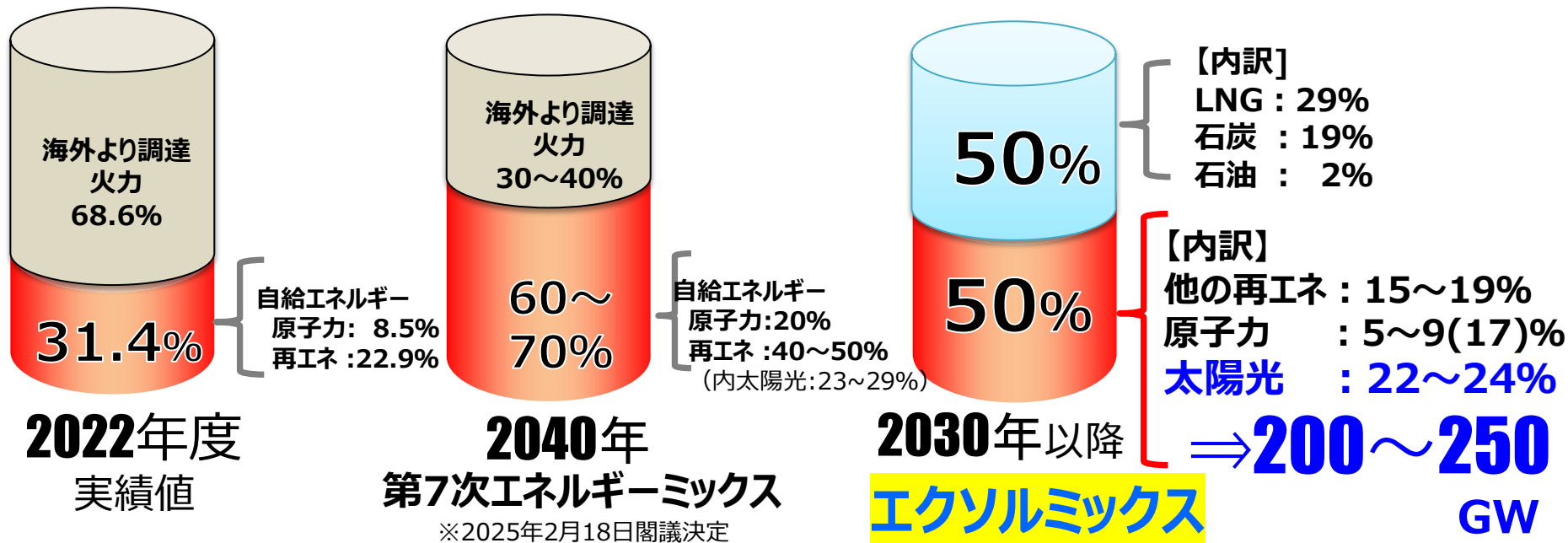
現行・原子力発電に対する批判

- ・経済合理性がない。
- ・原発ムラといわれるように閉鎖的な利権構造がある。
- ・福島原子力発電所の事故が示したように安定供給源として信頼できない。
- ・ゼロエミ電源なのに、建設・燃料調達・廃炉まで含めるとCO2を大量に排出する。
- ・ウランを輸入しなければならないのに、自給エネルギーというはおかしい。
- ・放射性廃棄物の処理問題がまだ確立されておらず、「負の遺産」となっている
- ・原発を新設する際や廃棄物の処理に多くのCO2が排出される。
- ・地域が、戦争やテロの際の攻撃の対象となるのではないか。



『エクソルミックス』とは

まずは、エネルギー自給率 最低「50%」確保！



2.再エネ・PV・原発・火力、それぞれの役割や これまでとこれから

→エネルギーとはなにか？本来、宇宙・地球と自然が与えてくれた無限のギフト。世界中が平等・公平に享受されねばならない

現行・原子力発電の役割やこれまでとこれから

現行・原子力発電の技術は原子爆弾の実用化技術をスライドした
もの→コスト・量産性ともにそれが最も実用化に近かったから。
どんなにコストをかけて補強工事をしても完全に安全なものはありません、
爆弾の技術なのだから。本来、対策コストは青天井。

一方で、爆弾の技術ではない安全な核エネルギーの応用は可能。
ex. **核融合エネルギー、核融合原型炉開発**

しかし、実用化（コスト低減含め）には膨大な時間とコストが必要
即ち、核の技術＝「悪」ではなく、核兵器＝「悪」

核の技術は未来にも必要。

核の技術＝「悪」のレッテルを貼れば現行原発の廃炉ができなくなる

火力発電の役割やこれまでとこれから

火力発電は、これまで文明の発展に大きな貢献をもたらした。しかし、これも通過点。抱える問題は、CO₂排出地球温暖化問題だけじゃない。

化石燃料は一部の地域でしか産出されず、以下の重大な悲劇を産み出している。

- 1 利権の奪い合い
- 2 国際紛争の原因
- 3 世界的なエネルギー強者と弱者が顕在化する
→エネルギーにおける豊かさの不平等

ただし全てこれは人災であり、火力発電＝「悪」ではない。

利権と国際紛争がもたらす結果

(例) 映画『アラビアのロレンス』より

第一次世界大戦中、イギリス軍の情報将校ロレンスは、アラブ民族主義を支援するため砂漠に赴任。アラブ人指導者ファイサル王子や部族のリーダーたちと共に、オスマン帝国の支配に抵抗するアラブ反乱を成功に導いていく。しかし、イギリスはアラブ人の独立を本気で考えていた訳ではなく、戦略的・経済的に重要な地域だった中東のスエズ運河と**石油資源の利権獲得の為に、オスマン帝国の分断を目論んでいた**。そのため、ロレンスはイギリスとアラブの間で引き裂かれ、次第に自分を見失っていく。

再生可能エネルギー（PV）の役割やこれまでとこれから

一部に「再エネ信仰」という言葉がある。確かに現在の再エネには数多くの弱点や課題がある。

だからこそ、現在の再エネ（PV）は「つなぎ」に過ぎない、と認識すべきである。しかしこの「つなぎ」の役割は極めて大きい。

更なる技術革新が起き、誰もが平等かつ公平に享受でき、圧倒的な効率を誇る新たなエネルギー・電源が実用化・普及するまでの間、50年？100年？200年？その長い時間をつなげねばならない重要な使命を担っている。

しかし、究極的には、火力、原子力を含め、すべての電源が技術的には、時代時代の『つなぎ』なのだ。

エネルギーとは宇宙・地球と自然が与えてくれた無限のギフト

太陽光は地球上の誰もが平等・公平に使えるエネルギー。

井戸水のように無電化村など含めて、誰もが当たり前
使える時代のひな型。

例え「つなぎ」であってもとても大切な使命を帯びた
『偉大なつなぎ』。

3.なぜ「クライシスの時代」なのか？ それを乗り越えるとは？

「不確実な時代」つまり「『天変地異』の時代」へ突入した！



「あたりまえ」「平和」「日常」が突然そうではなくなる。
突然訪れる「危機の時代」

『誰もがいつ、紛争・災害・混乱被害の当事者になってもおかしくない時代』

トルコ・シリア地震



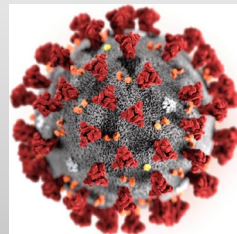
※写真1

洪水被害



※写真2

新型ウイルスの流行



※写真3

アメリカ・オーストラリア
山火事



※写真はイメージです

過去3年間の主な災害・紛争

2022年

2023年

2024～5年

生年	内容	区分
2022年2月～	ロシアのウクライナ侵攻	戦争
2022年4月	フィリピン：台風「タイフーン」による被害	台風
2022年6月	ナイジェリア：聖フランシス教会襲撃事件	テロ
2022年6月	アフガニスタン東部地震	地震
2022年6月～8月	パキスタン洪水	洪水
2022年7月	安倍晋三元首相銃撃事件	テロ
2022年8月	カブール国際空港自爆テロ	テロ
2022年9月	アフガニスタン：カブール教育センター自爆テロ	テロ
2022年11月	インドネシア・西ジャワ地震	地震

生年	内容	区分
2023年2月	トルコ・シリア地震	地震
2023年2～3月	サイクロン・フレディ（マラウイ等）	台風
2023年4月	スーダン内戦	紛争
2023年8月	ハワイ・マウイ島の山火事	山火事
2023年9月	リビア洪水	洪水
2023年9月	モロッコ地震	地震
2023年10月	イスラエル・ハマス戦争	戦争
2023年	ガザ紛争	紛争
2023年	ミャンマー内戦（死者が前年の倍）	紛争・テロ

生年	内容	区分
2024年1月	能登地震	地震
2024年5月	ナイジェリア北東部襲撃事件	テロ
2024年8月	台風10号（サンサン）	台風
2024年9月	能登地方の豪雨	大雨
2024年10月	トルコ・アンカラ郊外襲撃事件	テロ
2024年10月	シリア・ホムス襲撃事件	シリア・ホムス
2024年10～12月	パキスタンにおけるテロ事件	パキスタン
2024年11月	パキスタン・カイバル・パクトウンクワ州自爆テロ	テロ
2025年1月	ロサンゼルス山火事	山火事

誰もがいつ災害や紛争（テロ）の当事者になってもおかしくない時代

「クライシスの時代」を乗り越えるとは？

戦乱・紛争

化石燃料の奪い合い、利権争いをはじめ、そもそも、人間の「悪想念」がまきおこしている現象。対症療法・根本治療により、必ず人類によって無くすことができるはず。それは一部の政治家や指導者に期待するものではない。一人一人が、参画し、立ち向かうべきもの。決して諦めてはならない。

災害

大雨/台風/ハリケーン/洪水/生態異常、地震/火災（山火事等）/パンデミック（感染症）

地球温暖化・CO2排出は原因の一部に過ぎない。地震・感染症・生態異常など地球環境が、生命体のように苦しんでいる。それもすべて人類が排出する「悪想念」によるもの。人類自身の手で解決せねばならない。痛みを伴わないと気付かないこともある。一方、起こるべくして起こる災害が常態化する時代においては、対応としての**レジリエンス**が重要。一人でも多くの人々の命と暮らしを守らねばならない。

4.「拝金主義」に姿を変えてしまった 末期的資本主義

→「お金ってなんだろう？」

⇒「きみのお金は誰のため（田内学・著）」と
MMT (Modern Monetary Theory) に学ぶ

末期的資本主義とは→「お金ってなんだろう？」

真の「経済（経世済民）」の意味、「貨幣」とは何か、に気づくべき時

〈例〉マスクの平均価格（1枚）推移（税別）

資料) エクソル調べ

2020年 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
マスク価格 枚/円	6 (最安3.4)	60	70	78 (最高160)	30	20	15	15	10 (最安5)
状況			コロナ 第一波	非常事態宣言					

ピーク時は平常時の**13倍（47倍）**の価格 → ハイパーインフレ・ハイパーデフレ

「『貨幣』はただの交換券」

「実態あるもの」=モノとサービスの「生産・供給能力」
→『仕事』こそが唯一無比の「価値」を持つ。

末期的資本主義とは→「お金ってなんだろう？」

(出典) 田内学著「きみのお金は誰のため～ボスが教えてくれた『お金の謎』と『社会のしくみ』～」東洋経済新報社・刊 より

・お金の謎① 「お金自体には**価値がない**」

・お金の謎② 「**お金で解決できる問題はない**」

・お金の謎③ 「**みんなでお金を貯めても意味がない**」

MMT/現代貨幣理論 (エムエムティー/げんだいかへいりろん)

MMTは「Modern Monetary Theory」の頭文字を取ったもので、現代貨幣理論のことです。通貨発行権を持つ国家は債務返済に充てる貨幣を自在に創出できることから、「財源確保のための徴税は必要ではない」、「財政赤字で国は破綻しない」、「インフレにならない限り国債はいくら発行しても問題はない」とするものです。

MMTはケインズ経済学の流れを汲むマクロ経済学理論のひとつで、「政府の財源は税と債券発行によって調達すべき」、「赤字拡大が続けば国家は破綻する」という主流派経済学の見方に対抗しています。

末期的資本主義とは→「お金ってなんだろう？」

「拝金主義」が生み出した闇

「お金さえあればいい」「お金がすべて」「お金は神様」



お金では幸せになれない

どんなに物質的に豊かであっても、不自由のない生活を営んでいたとしても日本では絶望して自ら命を絶つ人や子供たちが後を絶たない。

しかし紛争や災害で絶望的な生活を送っていても、海外の難民キャンプで自ら命を絶つ子供はいない。本当の幸せとは何か？

**5.すべての原因は「自分さえよければいい」という
「エゴ」という名の地球に蔓延する「悪想念」**

私たちの地球はなぜ、こんな風になってしまったのか？

2021/8/5
大阪大学 基礎工学部 理学部 講義
※一部修正加筆

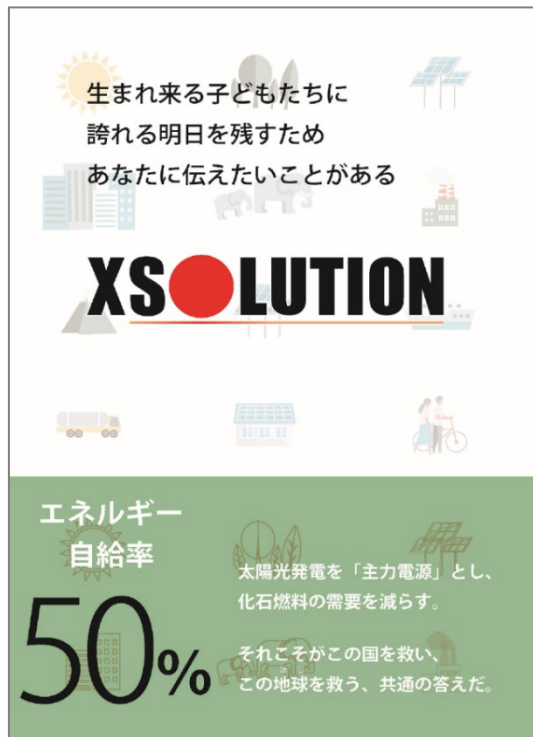
- 地球が、有史以来、未曾有と言うべき瀕死の状況に陥っています。
- 各地で、天変地異が起こり、生態系は破壊され、変異し、環境汚染により、その毒は結局、それを垂れ流した私たち自身の生命と文明を脅かしています。新型コロナウイルス感染症もそのひとつと言って過言ではありません。
- 拝金思想、即ちお金こそ神様であるという愚かな価値観の下、「自分さえ、自分たちさえよければいい」という「エゴ」という「悪想念」を世界中で発生させ、行き過ぎた資本主義が横行し、過剰で無用な再生産や消費をひたすら拡大し、その悪循環を今も繰り返し続けていることの結果だと言えましょう。
- 本来ならば、人類が心から反省し、この「エゴ」という「悪想念」の発生排出を止めなければ、根本的な解決にはなりません。
- 自分達がこの世からいなくなった後の世界を素晴らしいものにする、という決意と志でそのビジョンを描いてゆかねばならない、と思うのです。
- 「エゴ」という「悪想念」の対局にあるものは何か？それこそが「自分ではない誰かのために」という「利他」の想いであり、それを具現化した行動、「共創」なのです。この地球を「エゴ」という「悪想念」ではなく、「利他」と「共創」で溢れる星に変えること。**それを私たちは「地球維新」と呼んでいます。**

6. 対症療法と根本治療

→ 魁（さきがけ）としての「XSOLUTION」

魁（さきがけ）としての「XSOLUTION」

「『エネルギー』を化石燃料に依存することの危うさから脱却し、自給率をまずは50%以上に」
～生まれ来る子どもたちに 誇れる明日を残すため あなたに伝えたいことがある～



生まれ来る子どもたちに
誇れる明日を残すため
あなたに伝えたいことがある

XSOLUTION

エネルギー
自給率
50%

太陽光発電を「主力電源」とし、
化石燃料の需要を減らす。

それこそがこの国を救い、
この地球を救う、共通の答えだ。

2020年9月

XSOLUTION 発表

「国際紛争＜世界平和＞」への答え、
そのひとつがここにある

「エネルギー・セキュリティ」への答え、
そのひとつがここにある

「地球環境問題」への答え、
そのひとつがここにある

人類のエゴ
過剰な物質主義と、
資本主義という名の拝金思想。
目先の欲に走った弊害が、
連鎖して全世界に拡大。

XSOLUTION

太陽光発電を「主力電源」とし、
化石燃料の需要を減らす。
それこそがこの国を救い、
この地球を救う、共通の答えだ。

国際紛争 (世界平和)

一部の産油国からしか
生まれない化石燃料、
その奪い合いが引き起こす
国際紛争をなくすこと。

答えのひとつが、ここにある。

エネルギー・ セキュリティ

世界中の人々が、
どんな時にも、分け隔てなく、
脅かされることのない
エネルギーを手にする事。

答えのひとつが、ここにある。

地球環境問題

気候変動はもとより
人類のエゴが生み出した、
あらゆる汚染源を減らし、
未来の環境を守ること。

答えのひとつが、ここにある。

国際紛争〈世界平和〉への答え、そのひとつがここにある

エネルギー（化石燃料）の歴史は、その奪い合いの歴史

国際紛争が起きる要因の70%は、エネルギー資源の利権争いであると言われています。

エネルギー（化石燃料）が一部の限られたしくみと支配下にあるという問題

一部の産油国からしか手にできないものであり、その利権を限られた裕福層や王族などが独占してきたことにより、私たち世界中の人類が常にエネルギー・化石燃料の供給危機にさらされています。

今こそ、化石燃料の需要を減らす太陽光発電の普及を

他国に依存しない自給自足エネルギーである太陽光発電で、過半のエネルギーが確保できるようになれば、化石燃料への需要・依存度は大幅に下がります。

争いが減り、先進国と途上国間の格差是正につながる。

化石燃料をめぐる争いや国際紛争がなくなり、自給自足ができるようになることで、世界中の暮らしのクオリティが一気に上がり、格差是正につながります。

また、貧富の格差を原因とした暴力（テロ等）の抑制にもつながります。

「エネルギー・セキュリティ」への答え、そのひとつがここにある

エネルギーを自給できないことのリスク

近年頻発している自然災害などの発生により、停電等が長期化した場合の生活への影響や、生命危機への恐怖は計り知れません。→電力会社や大規模発電所、さらには広域電力系統網という外部インフラに依存し、自分たちで使うエネルギーを自給することができていないからです。

エネルギー自給率の低い国が抱えるリスク

国際紛争等の有事が起きた際に、エネルギー自給率が10%以下と低い国の場合、たちまちエネルギーの供給危機に陥ります。その結果、暮らしの安心が大規模に脅かされます。

自給自足エネルギーの普及へ、ソリューションは「分散化電源」太陽光発電しかない

エネルギーセキュリティに関しても、自給自足エネルギーである太陽光発電のさらなる普及こそが、有効な解決策です。さらに「電源の分散化」が電力系統網等への被害が発生した場合の対策として極めて重要になります。

エネルギーの供給リスクにさらされない強靱なエネルギーセキュリティを確保

太陽光発電によりすべての国や地域、そして法人・個人がエネルギーを自給できれば、各国の総エネルギー自給率が飛躍的に高まり、他国に依存しない強靱なエネルギーセキュリティを確保できます。

エネルギー自給率の極めて低い日本においては、この問題は喫緊最重課題であるといえます。

「地球環境問題」への答え、そのひとつがここにある

地球温暖化は環境問題の一側面にすぎない

CO₂や地球温暖化以外にも、「天変地異」ともいふべき異常気象が世界中で頻発し、特に気候変動は干ばつ、山火事、台風、大雨、洪水、生態系の異常を引き起こし、果ては疫病やウイルスをも産み出し、食糧危機にまでつながります。

化石燃料への依存が地球環境全般を脅かす

化石燃料への異常依存は、有害ガスの発生、大気汚染、水質汚染。プラごみ等の廃棄による土壌汚染、海洋・水質汚染等が引き起こされ、生物への影響や様々な環境汚染問題につながります。

化石燃料を減らしてゆくこと、そして自然や環境を大切にしながらの再エネ普及、それが地球環境問題の解決につながる

化石燃料への依存度が減ることで、気候変動だけでなく様々な汚染源も減り、あらゆる地球環境問題の解決につながります。しかし、太陽光発電の普及自体が自然破壊や廃棄物の大量発生につながるものがあってはなりません。強引な山林開発などを禁止しリサイクルシステムの確立が必須条件なのは言うまでもありません。

再生可能エネルギー・太陽光発電の普及と「主力電源化」が、地球と日本の未来を変える

無限に降り注ぐ「太陽からの愛」とも言える太陽光発電を普及により、化石燃料の需要と依存度を劇的に下げてゆくこと。そして、決して枯渇することのない豊かでクリーンな太陽光発電を1kWでも多く普及させることで安全・安心・平等・公平で平和に生きてゆける世界を、未来の子どもたちに残すことができます。

私たちの地球はなぜ、こんな風になってしまったのか？

2021/8/5
大阪大学 基礎工学部 理学部 講義
※一部修正加筆

- 地球が、有史以来、未曾有と言うべき瀕死の状況に陥っています。
- 各地で、天変地異が起こり、生態系は破壊され、変異し、環境汚染により、その毒は結局、それを垂れ流した私たち自身の生命と文明を脅かしています。新型コロナウイルス感染症もそのひとつと言って過言ではありません。
- 拝金思想、即ちお金こそ神様であるという愚かな価値観の下、「自分さえ、自分たちさえよければいい」という「エゴ」という「悪想念」を世界中で発生させ、行き過ぎた資本主義が横行し、過剰で無用な再生産や消費をひたすら拡大し、その悪循環を今も繰り返し続けていることの結果だと言えましょう。
- 本来ならば、人類が心から反省し、この「エゴ」という「悪想念」の発生排出を止めなければ、根本的な解決にはなりません。
- 自分達がこの世からいなくなった後の世界を素晴らしいものにする、という決意と志でそのビジョンを描いてゆかねばならない、と思うのです。
- 「エゴ」という「悪想念」の対局にあるものは何か？それこそが「自分ではない誰かのために」という「利他」の想いであり、それを具現化した行動、「共創」なのです。この地球を「エゴ」という「悪想念」ではなく、「利他」と「共創」で溢れる星に変えること。**それを私たちは「地球維新」と呼んでいます。**

7.日本における、あるべきPV普及の姿 →「『利他』と『共創』」とはなにか？

「利他」と「共創」が実現する、あるべきPV普及の姿

1. 全ての人に平等・公平なエネルギーの豊かさを！と願うこと
2. 我々はビジネスではなく、社会や人々を幸せにし、そのインフラ創りを使命としている。即ち「経世済民」に携わっていると認識すること
3. エネルギーとは宇宙・地球と自然が与えてくれた無限のギフト。そのことに感謝をし、その恩返しとして、人々にその恩恵を届けること、それがエネルギービジネス
4. その結果として、ビジネスとしての成果も与えられる、ということ。即ち「原因結果の法則」として。
5. 賛成反対の別なく、全ての関係者・当事者はパートナーであり、上記の目的のための仲間である、と気づくこと。即ちWinWin以外に成功はない。
6. これから来る未曾有の危機を乗り越える為には、老若男女・政官学民、そしてそれぞれのリーダーたちが、各々の役割・責務と持てる強みを持ちより、活かしあい、近視眼的な目先の保身を捨て、一致団結・統合して「成果」を目指し「UNIFICATION」、「利他」と「共創」の発想と行動が必要不可欠。

多様化・拡大する日本の太陽光発電

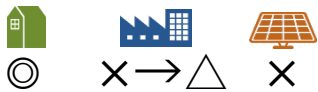


2020/2/26
第13回国際太陽光発電展ブース内セミナー
※一部修正加筆

これまで **80GW以上**

これから (2030~40年まで) **135~185GW**

FIT
余剰



FIT
全量



FIT
余剰



Non-FIT
余剰



FIT・FIP
全量



Non-FIT
全量



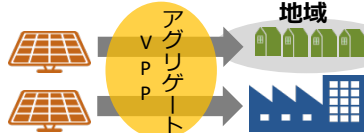
導入方法が
多様化し普及
が加速する

既存PV発電所も潰さない
改修やリパワリングを行い
『寿命のない太陽光発電』を実現

100%
自家消費



オフサイト
100%
自家消費



オフ
サイト

自己託送
自営線

オンサイト
100%
自家消費

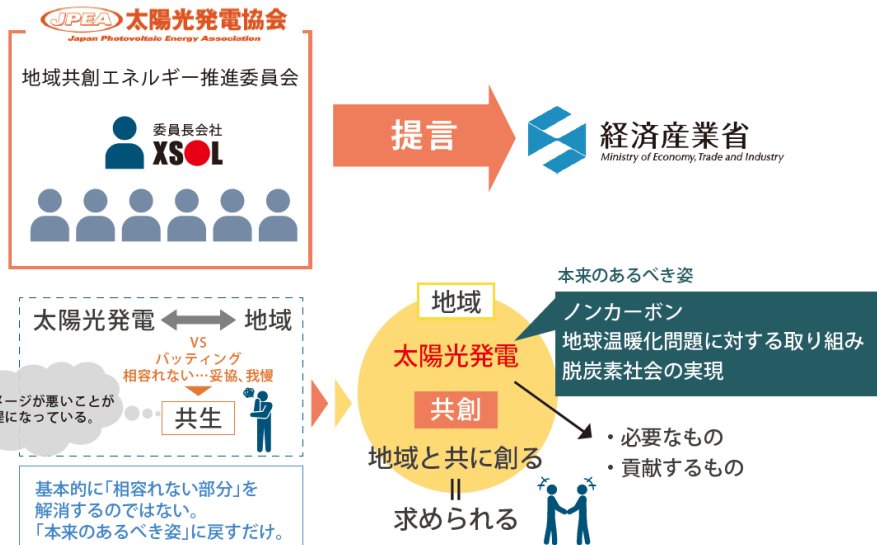


既存の設備を維持して新規導入も加速すれば達成可能
→ 1Wも潰せない!!!

地域との共生/共創とは

2021年より「地域共創エネルギー推進委員会」を結成して対策を協議

①委員会の結成コンセプト



1. 太陽光発電所の安全性とそれに伴う「地域に暮らす人々の安心」の確立
2. 地域において必要不可欠なエネルギー（電源）として、その貢献性の確立

②2階建てシステムで発電所の良否を判定



参考情報: JPEA地地域共創エネルギー推進委員会資料第6回、第7回・第二次中間報告資料より抜粋

「利他」と「共創」の発想と行動が必要不可欠

鑑定セミナー

ポストFIT時代に向けた
中古太陽光発電設備の流通市場の拡充



鈴木 伸一氏
エクソル



日暮 正毅氏
経済産業省



森本 晃弘氏
COZOS

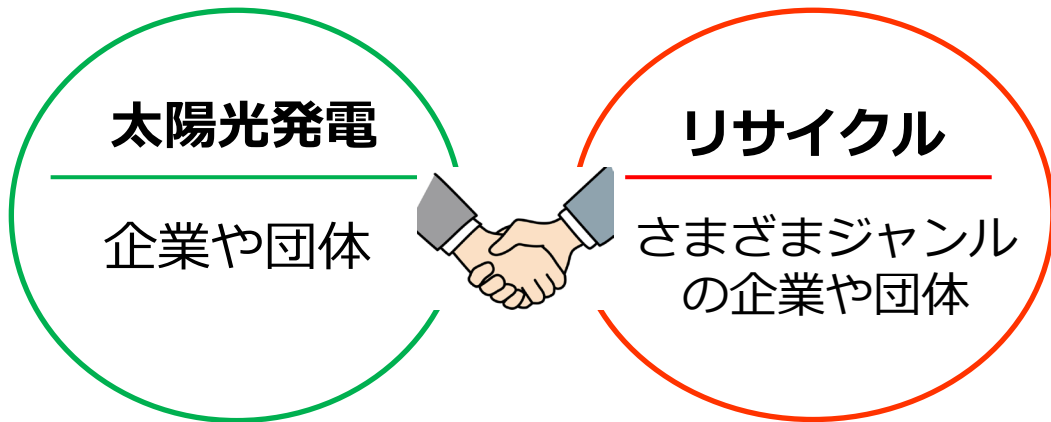


司会
若山 和夫氏
日本資産評価士協会

対談日 : 2024年3月21日

出典 : 「不動産鑑定」住宅新報出版2024年5月号」

リサイクルも



太陽光発電の建設～リサイクルまで
ワンストップな「業界創り」が必要

地域との共生・共創を実現

【新都市、低圧発電所計画の事例 2023年年7月～2024年11月（完工）】 敷地面積：約1,700㎡ DC：102.3kW、AC：49kW

地域の反対

発電所の建設予定を区に報告。

当該地が日本の歴史に関わる観光地に近い土地であることから、歴史的な背景や景観の観点から地域住民から反対の声が挙がる。

住民説明会・意見交換開催

市内公民館で約60名が参加。

【エクソル】

地域の皆さまの総意に従いたいことを伝える。

【出席者からの主なご意見】

- ・歴史的な背景や景観の観点から中止して欲しい。
- ・土地活用なら観光者用の駐車場にはどうか。
- ・景観を損なうと思わないし、停電時にも役立つ。
- ・管理できずに土地が荒廃する方が景観を損なう。

賛同

区とエクソルが約半年間にわたり協議を行って作成した「**協定書**」を締結することで、

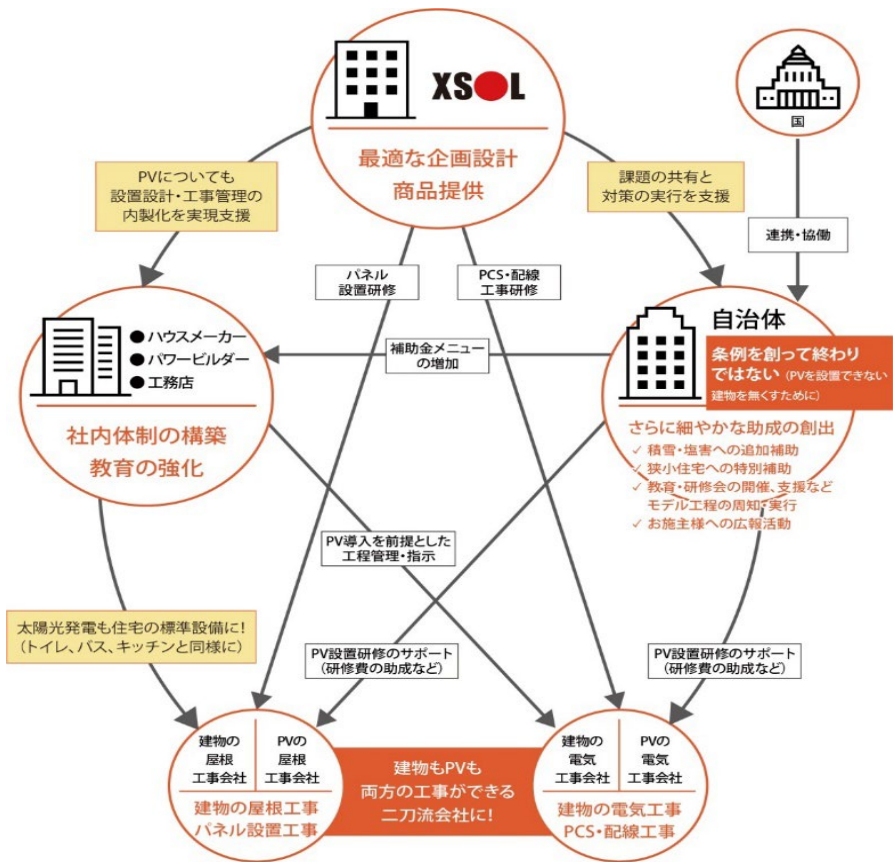
太陽光発電所の建設に賛同をいただく。

【協定書の内容】

- ・フェンスの色彩や外観を、眺望に配慮して景観に調和する
- ・災害等によって地区内で停電が発生した場合、非常用電源として電力を供給する
- ・事業の余剰地は観光ガイドおよび駐車場用地として使用する

住宅義務化時代を乗り越える「全棟搭載アライアンス」

2023/3/15
PVEXPO2023春 プース内セミナー
※一部修正加筆



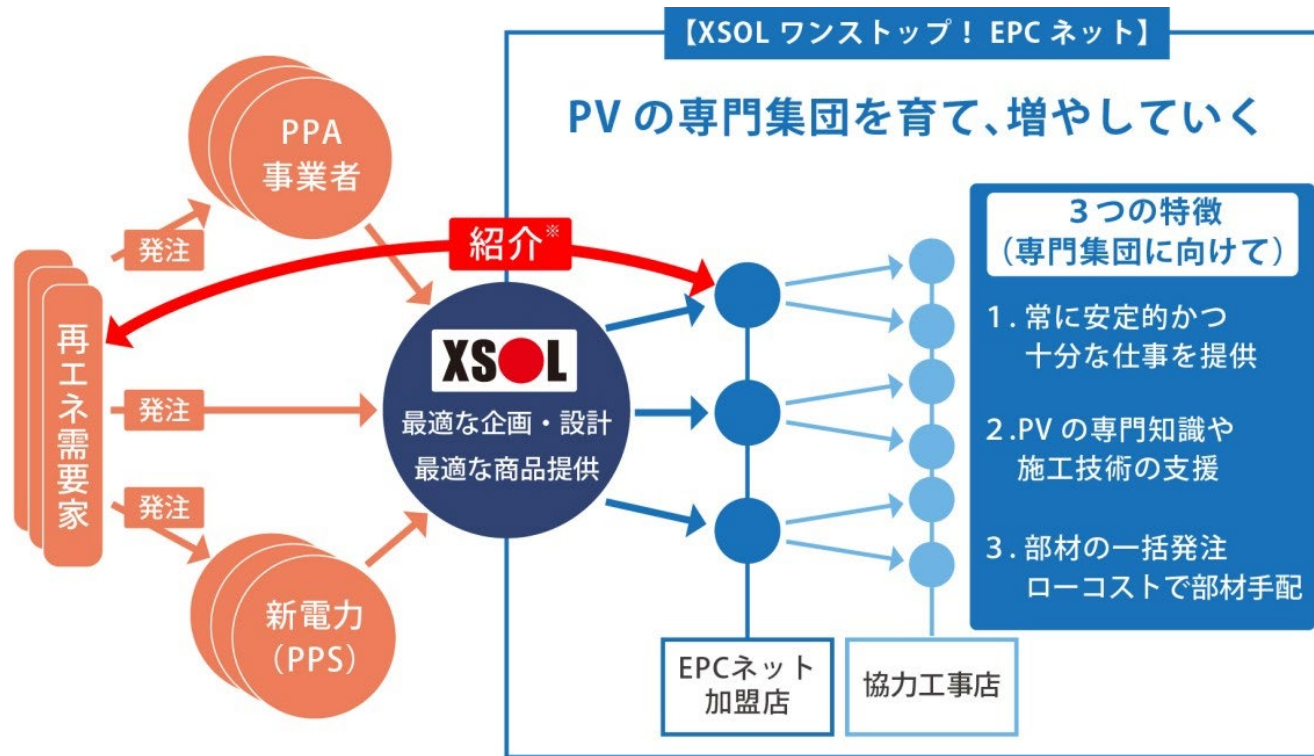
住宅工事にかかわる全ての人
が太陽光発電の専門集団になることで、「義務化時代の全棟搭載」を実現!

今後は蓄電池(V2H)をセットにした導入が進んでいく
→お客様の多様な要望に応えられる体制やフォロー体制を構築していく

大量導入時代を乗り越える「EPCネット」

2023/3/15
PVEXPO2023春 プース内セミナー
※一部修正加筆

施工店とのタッグをより強固にして住宅・産業の大規模需要に対応していく



需要拡大の波を乗り越える為に～大量導入を実現する「EPCネット」～

8. これから来る未来の子供たちのために

→バタフライ・エフェクトを起こし、「素晴らしい過去」になろう、今、「エネルギー維新」から「地球維新」へ

バタフライ・エフェクトを起こし、「素晴らしい過去」になろう、
今、「エネルギー維新」から「地球維新」へ

「神は乗り越えられない試練は与えない」と言います。

私たちはそれらを乗り越え、未来に来る子供たちや孫たちに「すべての事は絶望ではなく、よりよき未来につながっているのだよ」ということを、身をもって示し、彼ら彼女らに新たな光、「再生と希望、そして勇気」を示さねばなりません。そして、私たちは子供たちにとって憧れと手本となる「素晴らしい過去」にならねばならないのです。

「バタフライ・エフェクト」。最初の蝶の羽ばたきが次々と希望の連鎖を引き起こし世界を大きく変えることがある。その最初の羽ばたき、蝶になろうではありませんか。これまで人類が自分たちの利益や快樂しか考えて来なかった、その心のあり方「悪想念」を止め払拭し、俱(とも)にこの幼い世界を変えましょう。

ご清聴ありがとうございました。

株式会社エクソルは、2025年日本国際博覧会の「大阪ヘルスケアパビリオン」に協賛しています。



Osaka
Healthcare
Pavilion
Nest for Reborn

ひきだしたい、無限の太陽力。

XSOL



資料のダウンロードは
左記QRコードより
お願いします！！